

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛

笠岡市用之江377

郵便番号714-0066

(0865)

電話 66-1311

FAX 66-1314



天場山分教会

昭和29年10月27日 豊栄町分教会 設立

平成6年8月26日 移転改称

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。

つなげよう、信仰の喜びを。

活動
目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。



教祖140年祭

立教187年
10月号

布教推進講習会 開催

9・21 祭典後

布教部

布教部(田中隆之部長)は、9月21日祭典講話に替え、村田幸喜先生(本部准員、布教部布教二課長、満州眞勇分教会長)を招いて、布教推進講習会を開催。講話要旨は次の通り。



お話しくだされる村田先生

教祖140年祭に向けた三年千日活動は、各教会が目標を立て、教祖の道を歩む重要な取り組みです。真柱様は、年祭当日に向けての努力が、教祖に喜

ばれることの意義を強調しました。また、布教活動は、結果が見えにくくても信仰の実践を通じて教祖へのご恩報じとなると述べています。そのため、個別訪問や様々な方法での布教を実践することが大切であり、身近な人々に信仰を広めることが重要です。3代真柱様も、にをいがけおたすけが我々の使命であると語り、目に見える結果にこだわらず、自分にできる範囲での努力が自らがたすかるる道につながると確信しています。

私共の教会では、10年以上にわたり毎月「にをいがけの日」として活動を続けています。その中で、80歳を超えた信仰初代の女性が、毎回参加しており、駅前でリーフレットを配るなど熱心に活動しています。最近の例会で、この女性が自らの経験を語りました。彼女は70歳後半から信仰を始めたのですが、彼女の息子の満席を報告しつつ、過去の反省から他人のために何かをしたいと感じたことを明かしました。今からでもできることをしようと思いい立ち、未信仰の友人におさづけを行いました。すると友人はとても喜び、彼女自身も大きな感動を覚えたとのことです。教会長や信仰の深い人々だけでは

なく、80歳を過ぎた人でも今からでも何かを始めることができるのだと思えました。教祖の教えに関する私の思いがあります。ある先生が教祖に対し、子供のために苦勞をかけて申し訳ないと伝えるところ、教祖は「苦勞でも何でもないねやで。人に頼まれてしていることならまたやめるということもあるやろうが、人に頼まれてしていることやないもの。やめるに止められんがな、通らずにはおられへんがな。また苦勞でも何でもないので」と語ったと記されています。この教えから、信仰の道は他者に言われて行うのではなく、自らの意志で自発的に真心をもって尽くすことが重要であると思います。

私は今回の三年千日の年祭活動において、教会の様々な項目に取り組んでいます。その中でも特に重要視しているのが路傍講演であり、1100回の実施を使命として毎日続けています。路傍講演を行うこと自体に特別な意味があるわけはありませんが、10年前の教祖130年祭の際に、私が大きな節に直面していたことがきっかけで、3年で1000回の路傍講演を決意しました。その結果、実際に多くの不

議な出来事が起こり、小さな教会でも初席者を110名お与え頂く喜びを得たほか、神殿の修築や付属建物の建設も実現しました。年祭活動が終わった後も、コツコツと続けており、今までに1900回を達成しました。今回の年祭活動で1100回を加えると、10年前からの合計が3000回になる見込みで、それを目指して日々努力しています。今朝も天理からおちばに参拝し、JR天理駅で路傍講演を行い、現時点で2524回目です。この数は私にとって、教祖に喜んでいただくための実践の証であり、別席者ができるかどうかは重要ではなく、1回1回の実施が私の喜びになっています。さらに、続ける中で体調を崩すこともありましたが、親神様の御守護により活動を続けられていることの有難さを改めて実感しています。たとえ誰も聞いてくれなくても、三年千日の間続けることで教祖は私の心を受け取ってくださいと素晴らしいお働きを示してくださいと信じています。布教活動において、私が続けやすい方法として選んだのが路傍講演であり、皆様も自分に合った方法を見つけて実践されてはどうでしょうか。例えば、個別訪問やリーフレッ

うか。例えば、個別訪問やリーフレッ

ト配り、神名流し、またはYouTubeやインスタグラムでの発信など、多様なアプローチが可能です。最近、私の後輩がYouTube&TikTokを活用しているのを見て、私もそのような新しい挑戦に興味を持ち始めています。

私はこのおたすけの第一歩は「一言のいをいかけ」から始まると考えており、時にその重要性を再認識することがあります。教祖100年祭に向かう3代真柱様の論達に「一言のいをいかけは人の運命を変える。それは親の声を聞くとき心の向きが変わるからである。一度のおたすけは人の心を入れ替え、ない命をもおたすけけいたたく。それは親の理を受けるからである」と示されています。私たちはこの一言に心を込めて喜びを持って努め、教会やおぢばに人をお連れして教祖に繋ぐ役割を果たすことが大切なのではないでしょうか。教祖に代わってお話を取り次ぎ、病気の方々には真実を込めておさづけの取り次ぎを行う。助け主は親神様であり、私たちはその手足となつて尽力することが重要です。私は教会で「こんにちは天理教です」とひと様に声をかけ、おぢば帰りを勧めるのが私たちの役目だと考えています。その

人のおぢばに帰ってくるかどうかは神様のご守護によるもので、私たちは声をかけることに専念します。また、おさづけを取り次ぐことも私たちの仕事ですが、その結果は神様にお任せし、天理教を知らない人々と出会い、自分でできることを精いっぱい行うことが大切です。私たちの使命は心を低く保ちつつ、一言のいをいかけを行い、教祖に繋ぐ方法を工夫していくことだと信じています。130年祭当時、私の家族と信者さんの協力で初席者100人を目指し、多くの人々に声をかけ続けた結果、大学生との出会いが生まれました。その大学生は後に私の弟と連絡を取り合いました。その友人の1人は修養科を経て本部勤務を希望し、実際にその技術を活かして神殿の手すりを溶接するという貢献してくれました。このことから、にをいかけが神様の働きを通じて大きな結果を生むこと、そして一言の声かけがどれほどの影響を持つのかを強く感じました。

私は教会長を務め、本部で働いているため、普段は天理教の信者に囲まれているので、天理駅や奈良駅へ出向き、天理教を知らない人との出会いを求め

て活動をしています。具体的には、路傍講演を行い、出会った人に声をかけてチラシを渡し、連絡先を交換することをしています。最初は周囲から理解されないこともありましたが、続けているうちに様々な出会いが生まれています。例えば、10年前の年祭活動で駅前で清掃をしていたおじさんと出会い、対話を重ねる中で天理教へ興味を持っていただくことができました。彼は初めは無関心だったのですが、最終的には本部に参拝するようになってもらった。このように「にをいかけ」を続ける中で、人々の心が変わることを実感しています。また、私は自分の信仰を公言し、新しい知り合いを作るよう努めています。天理教に関心を持っているか尋ね、興味がないと答えられれば、その人を「別席予備軍」として心に留め、年に数回の別席団参の際に声をかけます。信頼関係を築くことで、教祖の教えを伝える機会が増えると信じています。さらに、布教部でも身近な人々にをいかけをと言っています。

が、これは逆に難しいこともあります。例えば、駅前でチラシを渡した際、初めて会った人に連絡先を教えられないと断られることもありましたが、体調

の話をしたところ、腰が痛いと言き、真剣におさづけを取り次ぎました。その結果、相手から電話番号を教えるなど、関係が深まるのを感じています。出会いを大切にしながら、おさづけを通じて教祖の教えを伝えていくことが私の使命だと考えています。

一方で身近な人に対するにをいかけは難しいと感じています。特に学校や職場の友人、親戚に対しては、天理教という信仰を直接伝えることで人間関係が壊れるリスクがあるため、慎重になります。私の姉は一般の人と結婚して熱心に布教し、多くの信者や別席者を作ってきましたが、学生時代の友人ににをいかけをした際、金銭に関することで反発を受け、非常に悲しい思いをしたようです。私たちは人に助かってもらいたいと思ってお世話させてもらっているのに、時には否定的な反応を受けることがあります。教祖も同様に、多くご苦労なされ、警察に連れて行かれたり、アホやバカやと揶揄されたりしましたが、その中で道の信仰を広めることにご苦労されたことが思い起こされます。教祖が向き合われたのは、当時の人々に親神様の教えを理解してもらったことでした。私たちの苦

労も教祖の雛形を辿るものであり、この活動が教祖の教えの核心であると思えます。ですから、どんな状況でも教祖の雛形を意識しながら、布教活動に励むことが重要だと思えます。友人や知人に声をかけていくことが、教祖の教えを広める一助となると考えています。

教祖は「種をまくのやで、天理王命の話をするんやで」と言われました。種をまいてもすぐには結果が出ないかもしれませんが、長い年月を経て必ず芽が出ると信じています。最近では、戸別訪問とか神名流しではにいがかからない、種をまいても結果が出ないと感じる人もいますが、種をまかない限り結果は出ないと思えます。この道は人間の心で行けるものではなく、神様のお働きが必要であり、種をまき続けることで心を作り、理作りをするこ

とが大切だと考えています。私は布教活動に出かける際、低い心になることを意識しています。というのも、会長や部署長になると高慢になりがちですが、にいがけではただの天理教の一員として、謙虚さが求められます。21年前、布教の家に行く際に、恩師から「断られることが多いが、そ

れがありがたい」との電話を受けました。その後布教に歩いてみて、布教は心を低くするために行うもので、たとえ誰も話を聞いてくれなくても、心を低く通ることが大切なのだ気づかされました。恩師の愛情深い指導に感謝しつつも、その教えを実践し続けるのは簡単ではなく、時には辛いこともありました。しかし、自分自身を作り直す機会と捉え、教祖の教えを信じて布教活動に励んでいます。最近、恩師の言葉が教祖の導きであったと感じるようになり、その信念が私の活動への後押しとなっています。今も心を低くするためににいがけに出させていた

だいているのです。現在では、子供食堂や里親制度、ファミリーホーム、自立準備ホームなどのおたすけの様々な工夫も大切だと思えます。道の信仰をする人々は、困っている人をたすけたいという気持ちが強

です。自身の教会でも子供食堂を運営しており、地域との信頼関係を築いています。天理教の活動を通じて、周囲の人々から興味を持たれることが増え、信念を持って取り組む姿勢が伝わると考えています。これにより、様々な活動を通じて従来の布教も大切にし

ながら、信頼関係を築いていくことが大事だと思っています。私がにいがけで一番大切にしているのは、おさしずに「どんなところにい

るのか、おさしずに「どんなところにいのかかるも神が働くからかかる。またどんなところへにいかかるもみんな入り込んでの自由と聞かしおこう」と言われてますように、おたすけは親神様や教祖にお働き頂くものから、私たちはその教えを伝え続けることが重要だと思えます。布教活動を始めた頃から今もつながっている方がいますが、20年前に出会った方で、現在は2件だけのつながりとなっています。昨年、福岡寮の40周年の記念講演の前日に、その方を訪問しました。その方は90歳のおばあちゃん、家族や近所の人たちを集めて、私の話を聞いてくれると言ってくれました。この出会いは不思議で、私が21年前の8月16日に初めてその方に会った日を今でも

覚えています。その時、団地を訪問していた際に、出迎えてくれたのはその方の旦那さんでした。彼は自分の母が天理教を信仰していたことを思い出し、私に興味を持ってくれました。その後、奥さんが帰宅し、最初は怖そうに印象を抱いたものの、意外にも私を家に招いてくれました。それから何度も訪問し、ご主人にもおさづけを取り次ぎ、いつでも訪問していいと言ってもらったのです。その後、3か月経っておさばに帰ることになった際、奥さんから驚くような話を聞きました。彼女は、「今まで天理教の人を家に入れたことは一度もない」と言い、私を受け入れた理由を教えてくださいました。当時2歳の息子が、天理教の熱心な信者であるお義母さん宅に向かう道中、バイクにひかれて出直してしまつた。息子を失った悲しみから事故を天理教のせいにして、あえて別の宗教に入ったそうです。しかし年月が経つにつれ、彼女たちは過去の選択を悔い、8月15日にお義母さんのお墓参りをして涙を流して謝罪したそうです。その翌日に私が訪問したことで、お義母さんが出会わせてくれたと感じたとのことです。それ以来、私たちは20年以上の長

い付き合いを続けており、彼女は私の大切な宝物となっていています。現在もお供えを送ってもらったりしながら、彼女との繋がりを大切に思っ歩いて歩んでいきます。

10年前、私は自分自身の事情で本当に辛い時期がありました。その中で本部の御用をしながら、三年千日毎日布教を続ける決意をし、路傍講演を行って来ました。しかし、私の事情はなかなか良くなり、苦しい思いをしていました。それでも、続ける中で急激ににいがかかって、不思議なお働きもたくさんいただきました。人をお連れすることに尽力しているうちに、「神様に任せよう」という心境になり、自分の悩みが気にならなくなりました。不思議なことが次々と起こり、活動を続けるうちに、自分の状況も少しずつ改善してきました。もしあの事情がなければ、私は布教を続けていなかったでしょうし、皆さんの前でお話しすることもなかったと思います。教会には多くの用木さんをお与えいただき、その中には大工さんもいて、教会の神殿を普請することもできました。これらは全て神様のお導きであり、逃げることなく、心を定めてその状況を

受け入れることが大切だと感じています。今月は全教会布教推進月間であり、にいがけ・おたすけこそが私たちの使命です。教祖にお喜びいただくために、またご安心いただくために精一杯努力したいと思えます。皆さんにも自分のできるにいがけやおたすけを続けていただきたいです。結果が出なくても、続けることが何よりも大切であり、その先には必ず良い結果が待っていると信じています。長時間にわたって私の話をお聞きいただき、ありがとうございました。

(要約 布教部次長 佐藤真孝)

委員長後継者講習会
開催 9・23 大教会
婦人会

婦人会笠岡支部(上原きよ枝支部長)は9月23日「委員長後継者講習会」を開催し、9人が受講しました。

支部長様お話では、「おやさま」という題目の紙芝居を取り入れて、おやさまを身近に感じてもらえるよう分かりやすくお話ししました。また、年祭活動後半の歩みとして掲げて下さった「毎日喜び 感謝を声に出そう」と



紙芝居を使ってお話

の実践項目を、それぞれが毎日の生活の中に取り入れて実践し身につけていく事で、年祭の旬に少しでも成人した姿を教祖にご覧頂ける様、歩ませて頂きますように締めくくられました。

その後、2班に分かれて、サイコロの目で決められたテーマに沿ってそれぞれが話をする「サイコロトーク」で盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。



テーマに沿ったサイコロトーク

午後から大教会周辺を神名流しをした。実践項目を、それぞれが毎日の生活の中に取り入れて実践し身につけていく事で、年祭の旬に少しでも成人した姿を教祖にご覧頂ける様、歩ませて頂きますように締めくくられました。その後、2班に分かれて、サイコロの目で決められたテーマに沿ってそれぞれが話をする「サイコロトーク」で盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。



お話聞き入る受講者



大教会周辺を神名流し

(常任委員 山野 なつ)

能登半島支援活動(第3回目) 報告 会長室

大教会は、10月5日、珠洲市の直小 学校仮設住宅広場で、被災地支援の秋 祭りをを行った。3回目となる今回は、 能登の皆さんに楽しい時間や空間を提 供したいとの思いから、秋祭りを実施 する事となった。

1ヶ月前より、屋台ブースのメニ ューや出し物、必要な人数、物品など の調整を始めた。秋祭りを現実化する には、20人が必要であった。また、開 催予定地は、プレハブ小屋が1つある だけの広場であったため、ほとんど全 ての物品をこちらから持参する形と なった。様々な声かけのおかげで、自 主的に参加したいという有志20人が整 い、各教会や地区の繋がりや、物品、 食材なども揃える事ができた。

一行は、10月4日の午後8時に大教 会を出発し、翌5日の午前6時半頃、 珠洲ひのきしんセンター(鹿島大・竇立 分教会)に到着。現地コーディネート をして下さったセンターの石橋氏と打 ち合わせ、準備がスタートした。 午後3時半の開場に向け、うどん、

炊き込みご飯、焼き鳥&豚バラ焼、揚 げたこ焼き、クロワッサンたい焼きな どの準備、テント、提灯、音響などの 会場設営が、一手一つに進められた。

およそ150人が来場した秋祭りは、今 回同行した女性を中心としたメンバー によるダンスでスタート。続いて、マ ジシャン『&U』(アンドユー)による マジックが披露された。また、子ども 餅つき、ビンゴ大会、カラオケ、花火 も大いに盛り上がり、仮設住宅の住民 がほとんどだった参加者の方々に、楽 しい秋のひとつを提供することがで きた。

(災害対策委員 上原 繁 次)



大盛況の予感！お祭り会場入場受付

能登半島支援活動に 参加して

興明分教会長 吉岡 誠一郎

仮設住宅で「秋祭り」を開催。これ が今回の支援活動の内容である。

現場は珠洲市立直小学校。仮設住宅 に26世帯52人が暮らしている。活動の 拠点は、珠洲ひのきしんセンターであ る竇立分教会。会長夫妻は、毎日のよ うにひのきしんに来られる方々をその 作業内容に応じてコーディネートされ ていると思われる。頭が下がる。さて 「秋祭り」の受付では、うどん・炊き 込みごはん・揚げたこ焼き・たい焼き・ 焼き鳥&豚バラ、更に子どもたちがつ いたおもち等、全てが食べられるチケ ットを100円で販売。更にみんなに必ず 景品が当たるビンゴカードを配布。ア トラクションは&Uさんのマジックシ ョーに始まり、カラオケ・こども餅つ き・ビンゴ大会・花火と盛りだくさん。 家に食べ物を持ち帰って食べる傾向が 強い住民が、笑顔でステージを見てお しゃべりをしている。特にビンゴゲー ムは大きな声も出て盛り上がった。途 中で帰る人はほとんど見受けられな い。天候にも恵まれて今回の「秋祭り」

は大成功だった。貴重な体験には感謝 しかない。



子ども餅つき

支援活動で感じた事

大教会女子青年 田中 彩

今回、私は人生2度目の炊き出しに 行かせていただきました。前回の炊き 出しでも感じたことですが、炊き出し ができるのは、当日炊き出しをしに行 く人はもちろん、炊き出しに行けなく ても、心を寄せて、見えないところで

動いてくださる方々の蔭の働きがあるからなんだと改めて感じさせていただきました。

秋祭りは、準備の段階で色々とハプニングもありましたが、被災された方々が喜んでくださる姿やたくさんの笑顔を見させていただき、私自身、すごくパ

ワーをいただきました。私は、今回炊き出しメンバーの中で最年少ということもあり、うまく馴染めるか不安もありましたが、そんな悩みも吹き飛ばくらしい、みなさんが本当に優しく、面白くて、温かくて、とにかく笑顔溢れる時間でした。

まだまだ被災地の復興は進んでいない状況ですが、被災された方々が一日でも早く元の生活に戻るよう、これからも神様をお願いさせていただきます。

秋祭り

甲井分教会 山田英嗣

前回に続き第3回能登半島支援に参加させて頂きました。今回は現地で祭



子ども達の歓声が会場に響いた花火

りを開催するとの事でした。当然後方支援をするのだと思っていましたが自分が想像していた事とは全く違い、ゼロの状態から秋祭りを開催するという大変なプロジェクトでした。

お祭りの会場は、仮設住宅横の広場でした。模擬店の会場づくりをしていても、此処で秋祭りをして本当に人が集まるのか? という感じでしたが、開始時間の15時半には既に行列が出来ており、予想以上に盛況なモノとなりました。幾つか有る模擬店の中で私は芳井分教会の奥様と揚げタコ焼きの係になりました。志郎先生から「積極的に現地の方に声をかけて」との事でしたので、被災者の方々と色々な話をさせて頂きました(話に夢中になって、

ついつい揚げタコ焼が黒焦げになったりもしましたが)。

ひとりの年配の女性が強烈な方言で言ってくれた「タコ焼きなんて久しぶりに食べた! 凄く美味しい!」という言葉を聞かせて頂いた時、10時間かけて能登まで来させてもらった事を心から喜ぶ事が出来ました。

前回も感じた事ですが、当たり前の生活を送らせて頂いている日常がどれほど有難いか再確認させて頂けた事に感謝しています。どうか、皆さんも機会があれば是非参加してみてください。

支援活動からの気づき

葦陽分教会 塩出久美

この度、第3回能登半島支援に初めて参加させて頂きました。

以前から能登の復興が進んでいないという話を聞いていたので、どうしても参加したいと思えました。

一人で参加するよりは、誰か一緒に行ってくれないかと思ひ大学生の息子に声をかけたところ、二つ返事で参加してくれると言ってくれました。

今回は仮設住宅に入られている方々に秋祭りを楽しんで頂くということでした。

能登の現状は、想像を超えていました。完全に倒壊していたり、傾いていたり、とても住める状態でない多くの家そのままだったので。いつ元の生活に戻るのかわかりません。そんな中で、秋祭りに来られた方々は、その時間を楽しんで下さって、私たちに笑顔を見せてくれました。

私は、バスの狭さや、たった1日お風呂に入れないことに不自由を感じた自分を恥ずかしく思いました。毎日、当たり前とと思っていることが、全てご守護であつて、感謝を忘れてはいけないと改めて思わせて頂きました。



大人も子供もお楽しみビンゴ大会

九月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には子どもかわいい一条の親心から 天然自然のお働きと自由の御守護を賜り 旬に応じての仕込みを通して 陽気ぐらしへとお導き下さいます事は 誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日々お見せ頂く姿は親神様の親心と受け止め 朝夕に御礼申し上げると共に たすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は 九月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを つとめさせて頂きます 御前にはいまだ暑さ厳しい中も厭わず 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供たちが 相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ 尚も変わらぬ親心にお縋りする皆の誠実の状をご覧下さいます 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今月は全教会布教推進月間として通らして頂いております 二十三日には「笠岡にをいがけデー」月末には「全教一斉にをいがけデー」がございます 本日は祭典に引き続き布教推進講習会を開催致します お聞かせ頂くお話をしっかりと胸に治めて 年祭活動二年目の年に相応しく より一層勇んでをいがけに励ませて頂く所存でございます

また来月は秋季大祭の月でございますので直轄教会に大祭参拝をさせて頂きます 立教に込められた親の思いを改めて思案すると共に それぞれ定めた目標・実践項目と 年祭活動後半の動きとして新たに打ち出した「毎日、喜び感謝を声に出そう」を実践し 成人の歩みを進めさせて頂く所存でございます

何卒親神様には 世界一れつ救きたいとの親心にお応えするべく たすけ一条に邁進する皆の誠実の心をお受取り下さいます 万たすけの上にお自由の御守護を賜り お望み下さる陽気ぐらしの世の状に 一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

秋季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代會長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くにる刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自せい子刀自の神霊 歴代会長と共に道の上に真実を尽くされた役員 部内教会長 教人よふぼく信者の神霊 また新たににお鎮まり下さいました中村幸子刀自 岡崎京子刀自 諸々の神霊の前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

祖霊様方には 親神様教祖から夫々のいんねんを見定められ 身上事情を通して早くからこの道に引き寄せられました 以来我が身我が家のいんねんの自覚の元ご恩報じ一筋にたすけ一条の真実を伏せ込まれました 今日のお道が結構な姿をお見せ頂いておりますのは 親神様教祖のご守護お導きの賜物である事は申すまでもありませんが また一つには祖霊様方の真実の理作りのお陰と 日々は朝夕にお礼申し上げますと共に 祖霊様方にもお喜び頂きたいと届かぬながらも たすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております

その中にも本日は 秋の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので 御前に心づくしの種々の物を供えて 只今はおつとめ奉仕人一同 親神様の御前にてをどりを つとめさせていただきますました 続いて祖霊様方の御前に座を移し 在りし日を偲び御遺徳を称え お礼申し上げます 皆の真実の姿をご覧下し して祖霊様方にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて教祖百四十年祭に向けての年祭活動二年目の年も残すところ三か月余りとなりました 来月には直轄教会への大祭参拝を行い立教に込められた親の思いに改めて思いを致し 大教会の方針と目標と新たに打ち出した実践項目 またそれぞれの教会毎に定めた目標と実践項目をもとに 成人の歩みを進めさせて頂く所存でございます

何卒祖霊様方には 変化の激しいこの時代においても 親孝心一筋にたすけ一条の歩みを続ける皆の真実の状をご覧下さいます 教祖百四十年祭に向かつての成人の歩みがより確かなものになりますよう お力添えを下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十七年 九月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	おつとめ				てをどり			地 方	役割 区分	講 話	祭 主		扨 者		
									大	前	上	お	大	前	上				岡	今	大	今	大
今川佐智子	上原順子	佐藤香苗	浅野明教	中村義太郎	中村剛	吉岡壽	高木昭祥	佐藤真孝	田中ますみ	前奥様	大教会奥様	上原繁道	前会長様	大教会長様	上原繁次	虫明立生	岡崎真一	坐り勤	布教推進講習会	今川昌彦	大教会長様	今川昌彦	大教会長様
三島照美	谷内美知子	岡崎豊子	門脇元教	内海史郎	山田敏教	岡田真誠	岡崎真一	浅野明教	吉岡八恵	中村初美	武内正美	吉岡誠一郎	上原隆浩	田中隆之	杉原善朗	田林久嗣	佐藤道孝	前半	十月講話	岡崎治喜	高木昭祥	高木昭祥	高木昭祥
高木孝子	田中つかさ	内海安子	赤木素志	虫明立生	谷内伸自	上原繁次	佐藤真孝	岡崎治喜	上原千枝子	室悦子	横山小智榮	横山逸郎	今川昌彦	上原志郎	谷内秀自	山野弘実	中島誠治	後半	大教会長様	岡崎治喜	高木昭祥	高木昭祥	高木昭祥

立教百八十七年 秋季霊祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	おつとめ				てをどり			地 方	役割 区分	祭 主	扨 者		贊 者	
									大	前	上	お	大	前	上				岡	今	大	今
上原順子	岡崎豊子	前奥様	佐藤真孝	谷内秀自	上原繁道	中島誠治	杉原善朗	岡崎真一	田中つかさ	門脇加津	大教会奥様	田中隆之	門脇元教	大教会長様	岡崎治喜	今川昌彦	前会長様	前半	横山逸郎	吉岡誠一郎	大教会長様	大教会長様
上原千枝子	三島照美	内海安子	三代拓己	三阪泰人	田中亜輝	武内清和	仙田公男	高橋徳行	山野なつ	吉岡八恵	武内正美	北川壯一	渡邊孝信	枝廣隆文	貞清知実	藤井治喜	谷内伸自	後半	上原志郎	上原繁次	内海史郎	内海史郎

📌 詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- ・詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、2日前までには、必ず詰所へご連絡ください。
- ・食事をしない(宿泊のみの)場合でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

部内教会・信者に徹底願います。



修養科を終えて

上下分教会 山野大地

3ヶ月の修養科生活は、私に多くの学びを与えてくれました。

組掛のお役を指名していただき、私は、多くの人をお世話どりさせていただこうと思っていました。しかし、現実はその甘くはありません。詰所の事や組掛としてやる事が多く、自分の事だけで精一杯でした。

そんな時、修養科主任・高井久太郎先生のお話の中に「人を助けようと思つたらあかん。人に助けってもらえる人間になりなさい」という言葉が心に響きました。私はなんと高慢な心で通つていたのかと反省しました。ありがたいことに、私の周りには、困つたら助けてくれる。物事を頼んだら快く受け入れてくれる人がたくさんいて、私にはこんなにも助けてくれる人がいる。本当にありがたい事だと思ひました。優しい言葉がけ一つ、話を聞く態度

一つが、どれだけ心に温もりと余裕を与えてくれるか。

私は、私を助けてくださった人の低い心や、人の為に尽くす行動をまざまざと見せていただき、今回修養科に入ったのは、この事を気づいてもらうために、親神様が引き寄せてくださったのだと思ひました。

修養科を修了することを新たなスタートとし、これから多くの人と関わる中で、低い心、人の為に尽くす行動を意識して通りたいと思ひます。

大教会だより

◎本部月次祭 登殿参列

- 立教187年8月26日登殿
- | | |
|-----|------|
| 弥高山 | 岡崎治喜 |
| 明石市 | 杉原善朗 |
| 御野 | 佐藤哲 |
| 香地華 | 武内清和 |
| 門司港 | 猪原啓介 |
| 大恵山 | 瀬藤友昭 |
| 高見島 | 瀬良善彦 |
| 高丸 | 谷本章 |
| 錦ヶ原 | 池平武司 |

◎第九七期修養科



自 立教187年7月1日
至 立教187年9月27日

* 教 養 掛 (主任、副主任)

一ヶ月目 ⑤ 森本忠善 (大教会役員)

海松ヶ岡分教会長

⑥ 藤本芳久 (東水島分教会長)

二ヶ月目 ⑦ 中村剛史 (久松分教会長)

⑧ 貞清知実

三ヶ月目 ⑨ 北川治史 (稻倉分教会長)

⑩ 津森朋之 (鎌ノ川分教会長)

* 修了者

上下 山野大地

◎教人資格講習会修了者

立教187年10月10日終講

上下 山野大地

◎立教187年秋季大祭参拝

(丸数字は当該月に)

- | | |
|------|--------|
| 福山 | 中島誠治 |
| 高山 | 大教会長様 |
| 神邊 | 大教会長様 |
| 島根 | 上原繁道 |
| 久松 | 武内正美 |
| 鶴山 | 門脇元教 |
| 弥高山 | 大教会長様 |
| 陽備 | 上原繁道 |
| 摩耶 | 前会长様 |
| 金浦 | 岡崎真一 |
| 興明 | 上原繁道 |
| ひろさと | 上原繁道 |
| 陶山 | ⑪ 田中隆之 |
| 芳井 | 上原繁道 |

今年8月末、義父の10年祭があり、家族で妻の実家へ里帰りした。年祭の



神免田中隆之	錦備前会長の様	美之郷 ^① 上原繁道	神昭岡崎真一	備中島誠治様	湯田原大教会長様	葦陽武内正美	驛家中原誠治郎	島中上原志郎	服部前会長の様	東城中門脇元教	府中市田中隆之	上石岡崎真一	明石市岡崎真一	皆部中島誠治	新山邑上原繁道	輝美濃上原志郎	照陽田中隆之	吸江大教会長様	東悠上原志郎	海松ヶ岡武内正美
--------	---------	-----------------------	--------	--------	----------	--------	---------	--------	---------	---------	---------	--------	---------	--------	---------	---------	--------	---------	--------	----------

直会の時、斎主をつとめられた上級教会のK会長さんとお話しさせて頂く事ができた。

K会長さんは「お道には大難を小難に小難を無難に、と教えて頂きますが、無難だと御守護頂いた事に気付けないし、大難ばかりではなかなか喜ぶことが難しい。いかに小難を喜ぶかが大事なんです。数年前、自教会の月次祭後、片付けも終わり、信者さん方を見送った後に、教会の玄関で大きな木片が足に刺さったんです。なんで勇んでおつとめをつとめた後にこんな目にあうんやと不足していましたら、私の弟が、『会長さん(K先生の事)、喜んでると思つたわ』って言うんです。理由を聞くと、『月次祭に来られた信者さんや、家族に刺さらず、自分で良かったと思つてると思つたわ』と言われ、ハツとしました。その時、心から身上を頂いたのが自分で良かった、小難にしてもらつて本当に良かったと思えました。」と自身の経験談を聞かせて下さった。

年祭活動期間中、教会の中で様々な事情・身上をお見せ頂いている。この出会いは、私の心の中にあるモヤモヤを救いあげて下さる為に、義父が引き合わせてくれたんだと思えた。(上)



Life is journey

12/1 Sun

やりたい人

アウトプットコース

自分に気付き
自分を知る
ワークショップ。
内側の声を聴いて
新しいスタートを
切りたい方へ。

聴きたい人

インプットコース

講師のお話に
耳を傾ける時間。
日常に幸せを
見付けて
手にしたい方へ。

スケジュール

9:30	開講
10:00	コースに分かれて
12:00	みんな揃って
12:30	昼食
13:30	ティータイム & ステージ
14:30	閉講

※昼食以降は親子での参加となります。

参加対象: 20代~40代の男女
笠岡大教会にて
申込締切 11/20
筆記用具をご持参下さい。
昼食・託児ございます。
参加費500円




自分をもっと
好きになる。

前日詰所便でございます。
◆11月30日午後5時詰所発 ◆乗車お供え1000円 ◆申込/杉原善朗まで

主催: 笠岡大教会 年祭準備委員会

笠岡大教会教祖 140 年祭活動 実践項目

毎日、喜び・感謝を声に出そう

朝目覚めて



生きている事に感謝
動ける事に感謝
布団に感謝
家に感謝

顔を洗う



水の恵みに感謝
身体に細胞に感謝

食事



天と地の働きに感謝
食べ物の命に感謝
携わった人々に感謝

トイレ



体内の働きに感謝
用を足せる事に感謝
トイレ空間に感謝

もったいない

しあわせ

うれしい

ありがたい

結構

~のおかげ

これでちょうど良い

入浴



火と水のご守護に感謝
浴室に感謝

就寝



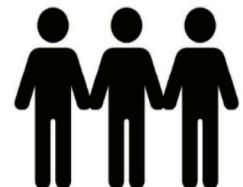
1日使わせて頂いた身体に感謝
出逢った人々に感謝
与わった食べ物・物に感謝
大難は小難に小難は無難に
して頂いて感謝

環境



天然自然の理に感謝
天気
変わらないご守護に感謝
学校・職場・地域に感謝

人間関係



縁、出会いに感謝
家族・夫婦に感謝
仲間・同僚に感謝
たすけあいに感謝

